

第3章 「観光・地域振興に活用されている馬」

観光・地域振興

北海道和種馬の利活用の普及に努める

どさんこフェスタ in 函館

道産子の魅力を伝え地域の活性化へ



事業の概要

北海道和種馬（どさんこ）は日本在来馬の一種であり、北海道開拓の歴史、かつての人々の暮らしの中で欠かせない存在であった。北海道和種は、現存する日本在来馬の中でも頭数も多いが、現在は1,200頭あまりが飼養されるのみとなっている。

○ どさんこフェスタ in 函館

「どさんこフェスタ in 函館」は、北海道和種馬（どさんこ）が主人公となり、古式装束に身を固めた男女の騎手（射手）が大勢の観客の前で繰り広げる流鏝馬競技である。

古来より、流鏝馬は神事として日本各地で行われてきたが、近年、競技としても発展してきている。この行事には北海道、東北地方を中心に13の流鏝馬競技団体が参加しており、相互交流を通じた連帯感を高める場にもなっている。

流鏝馬イベントは、日本に古来よりいた日本在来馬を用いて行われることから、戦国時代などの様子を垣間見ることができ、馬が古来より人間社会においていかに貴重なパートナーであるかを改めて思い起こさせる絶好の機会である。また、北海道和種馬などが全力疾走するときのスピード感、躍動感、名人による騎射の正確さ、伝統装束の美しさなど、楽しませてもらえる要素が多い。日本人のみならず海外からの観光客にとっても

魅力的なイベントである。

会場の「緑の島」は函館湾に突き出た人工の島で、公園内の丘陵に登れば湾内を一望することができ、島全体が市民の憩いの場（公園）になっている。公園の一部では子どもや家族の体験乗馬も同時に実施されており、馬とのふれあいの場ともなっている。また、日本古来の鞍の展示などもあり、馬事文化を伝えるよい機会にもなっている。

「どさんこフェスタ in 函館」は、地元の家族だけでなく、観光客など多くの観衆が押しかける市を挙げてのイベントとなっており、1万人以上が訪れる。地域の活性化のねらいもあり、当初は市の助成金を受けていたが、現在は主に寄附金によって運営されている。



オープニングセレモニーの役割を果たした子ども
(子どもでも扱いやすい北海道和種馬)



競技会の様子（流鏝馬、和鞍の展示、市民体験乗馬）

運営体制等

民間の乗馬施設である「函館どさんこファーム」が中心となって全体運営がなされている。市長をはじめ行政関係者、北海道和種馬保存協会（在来馬と「道産子」の説明やデモ）、地元高等学校弓道部（高校生による審判員）等の惜しみない協力がある。

イベントの前日に、試走ルール、出走方式（スタートラインでの馬の停止、コントロールなど）、落馬防止、出走馬の管理と放馬の防止、馬糞の処理、芝生の保護、大会の安全運営などについて、主要スタッフと参加13団体の代表者により入念に確認が行われており、安全対策、環境への配慮が充分なされていた。安全対策としてヘルメットの着用に向けての取り組み努力も行っており、古式伝統馬術の装いを壊すことがないように工夫されたヘルメットも作製されている。



開会挨拶をする池田 茂氏

背景（地域連携、展望等）

函館は、北海道開拓の原動力として、東北から馬が持ち込まれ、物流の拠点として大きな役割をになってきた地域である。現在でも、北海道和種馬の生産と飼養、活用、馬文化の保存について積極的に取り組まれている。北海道和種馬の特徴は、厳しい自然の中で鍛えられた丈夫な体質と強靱な体力である。

本イベントを中心になって推進している函館どさんこファームでも、持久力が豊かで、比較的温かな北海道和種馬を用いて、北海道の大自然のなかを乗馬するホーストレッキングを行っている。乗馬料金はコースや所要時間によって異なるが、4,500～6,000円または15,000円/150分で、馬の貸切りも可能である。また、「やぶさめ道場」では、2泊3日にわたって集中レッスンを受けることができるなど、流鏝馬競技の発展にも尽力している。また、「森林騎馬隊」をつくって道有林の巡視活動も行い、環境の保全にも貢献している。

北海道和種馬の保護と活用は重要であり、観光資源としても潜在能力を秘めていると思われる。

.....

どさんこフェスタ in 函館開催実行委員会
函館どさんこファーム

(URL) <http://www.dosanko-hakodate.com/>

(TEL) 0138-54-1340